

**若冲が創りだす、めでたさあふれる楽園。**

右隻中央に白象。左隻には鳳凰。色鮮やかな動物づくし、鳥づくしのまことにめでたい屏風である。伊藤若冲の「樹花鳥獸図屏風」は、靈獸や異国の動植物と、身近な動物や鳥が仲良く集う理想の世界。画面を「センチ四方」の枠目で塗り分ける「枠口描き」という手法で、この世のものではない樂園が描かれている。作品の由来は不明だが、日本画でよく使われる縁起のよいモチーフもちりばめられ、婚礼などめでたい席で使われたのだろうと考えられる。晩年まで絵師の道を究め続けた若冲、その独自の技でこのうえなく幸せな樂園を創りだした。

原本は静岡県立美術館が所蔵、二〇一〇年に綴プロジェクトが寄贈した高精細複製品は、出張授業や美術館内外の展示で活用されています。屏風を畳にしつらえて間近に見ることで、「一枚一枚の精緻さを確かめることができます。ガラス越しの展示とは違う屏風ならではの鑑賞の機会が多くの方を若冲の思いへ近づけています。

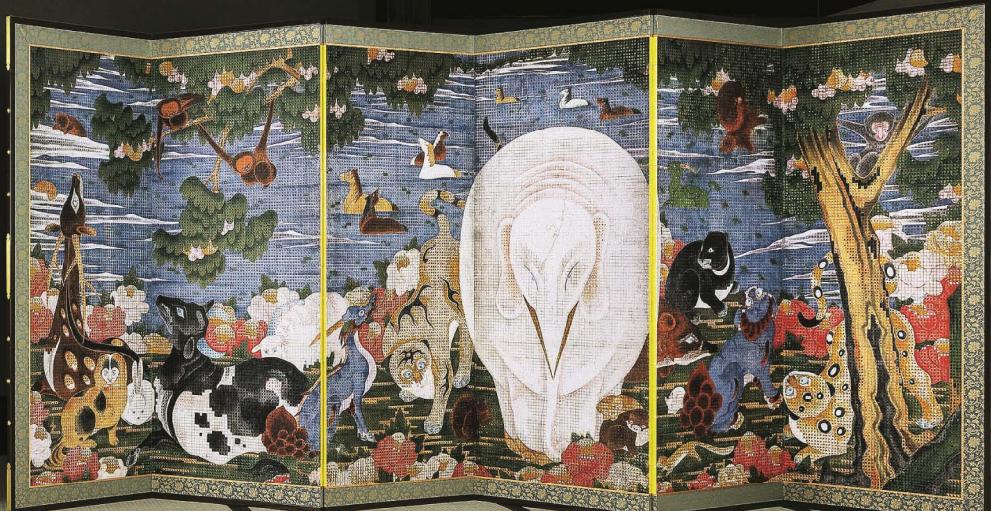
日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。

海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品(38作品)は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術により身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイトでご覧いただけます。  
[global.canon/ja/tsuzuri](http://global.canon/ja/tsuzuri)



### 綴プロジェクト作品 樹花鳥獸図屏風

伊藤若冲 筆 寄贈先・原本所蔵: 静岡県立美術館

#### 公開情報

二〇一九年二月七日(木)～三月十九日  
(火まで綴プロジェクト作品「樹花鳥獸図屏風」が旧三井家下鴨別邸[京都]にて公開されます。